

| めざす学校像・子ども像・教員像   |   | 課題   | 今後の改善方策  |
|---|---|--|--|
| <b>【目指す学校像】</b><br>○あいさつに溢れ、明るく生徒が登校する学校 ○環境美化を推進し、安全で学習に専念できる学校<br>○いじめや不登校がなく、正しいことが認められる学校 ○保護者や地域社会から信頼され、開かれた学校<br><b>【目指す生徒像】</b><br>○学校を愛し、誇りを持ち、社会に貢献できる生徒 ○将来を見据え自らを律し、正しく行動する生徒<br>○逞しい心身を持ち、粘り強く、自ら課題に立ち向かう生徒 ○自他の人格を尊重し、互いに認め合い高め合う生徒<br>○自らの考えを發表し、行動できる生徒<br><b>【目指す教師像】</b><br>○一人一人の生徒に、真の愛情を注ぐことができる教師 ○学校教育目標を理解し、具現化のため努力する教師 ○研修に努め、専門的知識と生徒指導力を備えた教師 ○保護者や地域社会との連携を密にし、教育の充実に努める教師 |   | 確かな学力の向上<br><br>不登校生徒をつくらない取組<br><br>道徳教育の充実   | ・アクティブラーニングを積極的に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行う必要がある。<br>・家庭学習の充実を図るためには、まずは保護者との連携が重要だと捉え、毎日の生活ノートの効果的な活用が課題である。<br><br>・生徒指導委員会や特別支援委員会などを活発に行い、常に生徒の情報を共有し、未然防止に努める。また、積極的に家庭訪を行う。<br>・保護者との連携を密にする。<br>・不登校対応教員、SC、担任との連携を密にし、組織的な体制を構築する。<br><br>・日常生活の中のいろいろな場面をとらえて生徒に考えさせる。<br>・校内研修を通して個々の先生達の力量を上げる。<br>・3年生になったときの道徳の授業の検証が必要である。 |
| 重点目標  | 指標(取組指標・成果指標)   | 達成状況についての説明  |  |
| 基礎学力の定着及び、指導方法の工夫改善を通じた学習指導の充実  | 基礎・基本の定着と言語活動の充実を目指し、小集団を活用した授業改善の取組を進める。(取組指標)                       | ○TT授業により個々の指導が行き届き、言語活動も活発にできた。また、小集団を利用し、教え合い学習が充実した。   |  |
|   | 学力の二極化を解消するために、定期考査前の補充学習の改善に努める。(取組指標)                               | ○補充学習も計画的に取り組むことができた。  |  |
|   | アンケート調査において、家庭学習毎日1時間以上を80%(成果指標)                                     | ○家庭学習を毎日1時間以上行っている生徒は、学年によって差があるが、約60%程度である。家庭学習の習慣化についても学年の差があるが60%超くらいである。毎日の生活ノートの活用状況は90%で、家庭学習の習慣化に役立っている。                            |  |
|   | 毎日の生活ノートを活用し、90%以上の生徒が家庭学習について定着させるようになる。(成果指標)                       |  |  |
| 自己指導力の育成と不登校を生まない生徒指導の推進  | 問題行動やいじめを未然に防ぐ指導体制の確立と職員間の情報の共有化を図り、個に応じた指導を徹底する。(取組指標)               | ○週に1回開催する生徒指導委員会で情報を共有しながら、問題行動やいじめの未然防止策及び早期対応策を協議することができた。また、その内容を毎週全体に報告することにより、全教職員で共有化し、個に応じた指導の徹底を図ることができた。そのため、生徒との望ましい人間関係づくりができた。 |  |
|   | 優しさや厳しさ、受容と共感の精神に即し、教師と生徒の望ましい人間関係を育成する。(取組指標)                        | ○不登校生徒への対応に関しては、不登校対応教員及び、担任を中心に、家庭訪問を積極的にを行い、保護者との連携も密にできた。また、サポートルームを有効に活用することで普通教室に戻り、学習できるようになった生徒がでてきた。                               |  |
|   | 生徒指導委員会を充実させ、事案や関係生徒の背景をしっかりと見据えた指導をすることにより問題行動やいじめの早期解決が増える。(成果指標)   |  |  |
| 「當仁不讓於師」の精神と実践力をはぐみ規則を遵守する道徳教育の充実   | #REF!   | ○「自他を大切に育てる生徒を育てる道徳教育の推進」を研究主題とし道徳の授業研究に取り組んでいる。   |  |
|   | 学校の教育活動全体で道徳教育を充実させることで、きまりを守ることの大切さがわかる生徒が増加する。(成果指標)                | ○夏期研修会では、3人組ローテーションによる授業を全員で実施する計画を立て、実践することができた。また、担任だけでなく副担任も授業を行うことで、生徒と教員のよりよい人間関係づくりを構築することができた。                                      |  |
|   | 指導力向上のために、夏季休業中に道徳教育推進の手引きを活用した研修を実施する。また、道徳の視点を入れた研究授業を2学期に行う。(取組指標) | ○自らきまりを守っていると答えた生徒は90%を超えている。<br>○実践的解決能力については、1年間で図ることは難しいと思われる。  |  |
| 職員全員で道徳に係わることで、生徒とともに考える関係が生まれ、実践的解決能力がついたと感じる生徒が8割を超えるようになる。(成果指標)   |   |  |  |
| 学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)  |   |  |  |
| ○前向きに、新しい取り組みを検討して、教育を考えていることは良いことだと思います。大いに期待できます。<br>○工夫をしながら授業をされている先生方の姿も見えています。<br>○にこにこして学校に通っています。あいさつをしっかりとくれます。<br>○体育祭やクラスマッチ、合唱コンクールなどでは、生徒がクラス毎に協力し合ってよく運営している。<br>○サポーター会議は、年2回で良いと思います。何かあった場合は、臨時に開催して良いと思います。<br>○授業参観が楽しいです。   |   |  |  |